2024/2/3 ver.3

令和6年能登半島地震 能登地域の地震被害調査(速報)





調査期間

令和6年1月17日~21日

調査メンバー

清田 隆 (東京大学生産技術研究所) 栗間 淳 (東京大学生産技術研究所) 池田 隆明 (長岡技術科学大学) 志賀 正崇 (長岡技術科学大学)

主な調査地点

〇志賀町

〇輪島市

O能登町

内灘町

かほく市





● 県道36号線、国道249号線沿いに段丘崖崩落や落成が確認





2007年地震でも関野鼻周辺で同様の崩 壊が見られた(<u>土木学会, 2007</u>)

輪島市門前町道下:家屋倒壊





輪島市鹿磯漁港:地殻変動による隆起、段丘崖崩落

- 地殻変動による隆起によって船着き場の海底面が露出
- 沖側の防潮堤では傾斜や目地開きが確認
- 山側の段丘崖では法枠工部が崩壊



輪島市 マリンタウン・河井町北東部 液状化と地盤流動による被害・変状調査の概要(調査1/19)

- ・地盤の変状により構造物基礎が損傷した家屋も存在するが、家屋被害は地盤変状よりも地盤 震動によるものが主体である。また、比較的新しい家屋の倒壊は確認されなかった。
- 調査対象地域は、埋立地盤・氾濫平野・砂州砂丘に分類され、異なる地盤挙動が認められる。
- ・埋立地盤では噴砂が認められ、護岸構造物に変状も見られるが、宅地・道路への被害は限定的。調査地域西側の埋立境界の道路では、30~40cmの沈下が生じ、道路の損傷も大きい。
- ・調査地の大半を占める氾濫平野では、液状化に伴う噴砂、亀裂、地盤変状が多数発生。
 - ✓ 旧海岸線から約60~70m南に比較的大きな亀裂が断続的に確認された。その亀裂より海側では液状化に 起因する噴砂・舗装の損傷、マンホール浮きあがりが発生した。上位では液状化の痕跡が少ないことか ら、下記の流動の起点部の可能性がある。
 - ✓ 氾濫平野に該当する埋立境界道路の歩道において、約250mにわたり最大60cm以上の隆起が発生。隆起の 範囲は、その背後に上記の地盤亀裂が生じた部分と整合するため、歩道隆起の一因は地盤流動によるも のと考えられる。
 - ✓ 流動地盤の勾配は1~2°と緩く、地盤や構造物の変位も大きくないことから、剛な基礎を有する壁周辺の液状化地盤の揺動により隆起が大きくなった可能性も有る。
- ・砂州砂丘に分類される地域では、明瞭な地盤流動は確認されず、液状化の程度も低い。構造物の被害も氾濫平野エリアと比べると少ない印象。



輪島市 マリンタウン・河井町北東部



マリンタウンの埋立前後の様子。埋め立てにより河井町北東部は海岸線までの距離が150-300m程度となった。



埋立地盤であるマリンタウンの海沿いの芝生広場では、噴砂、および部分的に小さな丘と なっている個所で亀裂と小規模な流動に伴う地盤変状が確認された。護岸構造物に変状が確 認されている(写真無)。





マリンタウンの新しい住宅地の道路に大きな変 状は見られない。写真では南側の縁石が傾いて おり、道路が若干沈下した可能性がある。



マリンタウンの住宅地。宅地と住宅に大きな 被害は認められない。埋め立て地盤であるが、 有意な噴砂や地盤変状も生じていない。

輪島市 マリンタウン・河井町北東部







でなく、車道の車線半分程度も隆起し、その亀 裂から噴砂痕が認められる。



最も歩道が隆起している場所の一つ。歩道の隆起は60cm以上にもなり、背後地盤の流動に起因する ものと考えられるが、流動の起点は未確認。コンクリート壁の沈下や前面への変位は大きくないため、 流動だけではこれほどの隆起は説明できない。コンクリート壁が埋立前の旧堤防である場合、比較的 丈夫な基礎を有している可能性があり、東北地方太平洋沖地震後に浦安市で確認された現象と同じメ カニズムである可能性がある(剛な構造周辺の液状化地盤の揺動現象)



28 27

埋立境界の河井町側歩道の隆起が連続する。 相対的に家屋が沈下して見える。

②の大きな歩道の隆起の南側の裏道。隆起から 30-35m程度。家屋の倒壊、電柱の傾斜、舗装の 損傷と10cm程度の開きを伴う亀裂が確認できる。 マンホールも浮上しており、噴砂の痕跡も確認 された。







③から更に南に位置する家屋の被害。一階部分 が潰れている。道路にある比較的目立つ亀裂は、 流動の起点と考えられる。







③の被害家屋の前で確認された約15cmの亀裂。 ⑧の歩道の変状をもたらした流動の起点と考え られ、その距離は約60m、比高は2m、勾配約2° である。この地盤変状と背後家屋被害の関係は 不明。基礎に損傷を与えた可能性はある。 ③より更に南の家屋の倒壊。同様の家屋倒壊・ 損傷は非常に多数で、道路が閉塞されている。





35 ③の反対側(西側)の様子。道路の変状はほと んど確認されず(全くない訳ではない)。震動

道路を東に撮影。右手には丘があり、道路は切 土である。全体的に変状は認められないが、切 土前の道路と歩道の境界部に噴砂痕があり、若 干隆起している。

んど確認されず(全くない訳ではない) による建物被害が多く確認できる。

輪島市 マリンタウン・河井町北東部



輪島市 マリンタウン・河井町北東部

















埋立境界の道路から約120m南に離れた道路で は、舗装に変状は見られない。奥の倒壊した家 屋は3階建てで、1階部分が潰れている。



埋立境界の道路沿いの家屋の被害。西方向に撮 影。ここより地盤条件は砂州・砂丘に分類され る。一階部分が潰れて倒壊した建物の背後の歩 道は、これより東側の歩道のように隆起もなく、 道路の圧縮の程度も少ない。







埋立境界道路から南方向に撮影。噴砂の痕跡が あるが、その程度は東より軽く、地盤変位・電 柱傾斜も同様。写真右奥の木立は神社であり、 砂丘の名残で地盤が高くなっている。そこまで の傾斜はほとんど無い。 埋立境界道路から30m南に平行する道路であり、 左(南側)は重蔵神社。石積み擁壁が一部崩れ ているが、道路に大きな損傷・変位は認められ ない。電柱の傾斜もほとんどない。

輪島市 マリンタウン・河井町北東部







輪島市 マリンタウン・河井町北東部



79の交差点から南方向に撮影。比較的新しい建物に損傷はほどんと認められず、道路の変状・ 噴砂痕も認められない。



西方向に撮影。建物被害の程度は比較的軽微に 見える。75では道路に損傷はなかったが、この 道路では亀裂が散見される。道路構造の違いが 影響している可能性。

輪島マリンタウン:護岸傾斜・背後地盤の亀裂や沈下



輪島市河合町:木造住宅の倒壊・周辺地盤の隆起・亀裂



28

輪島市河合町:中層構造物の転倒・傾斜



隣の建物前で液状化 による噴砂を確認



輪島市河合町:中層構造物の転倒・傾斜



輪島港北側:岸壁の海側への移動と背後地盤の沈下



能登町:宇出津第三トンネル

● 擁壁ごと斜面が崩壊しており, 通行ができなくなっている



Google street. 地震前



能登町:宇出津

- 埋立地の液状化を伴った亀裂
- 川沿いの地盤変状
- 岸壁の背後地盤の沈下および亀裂







● 家屋の転倒と周辺道路の亀裂および電柱の沈み込み







● 谷埋め盛土部の滑落被害





- 津波および火事による広域な被害
- 津波被害は川沿いが甚大







志賀町の地震観測記録

加速度波形、速度波形、加速度応答スペクトル(減衰定数5%)

K-NET富来(震度7)

加速度応答スペクトル: 0.2秒付近に卓越が見られる



KiK-net富来 (ISKH04)

溶岩

070丘堆和

JMA志賀町

段丘堆積物

K-NET富来

(ISK006)

輪島市の地震観測記録

加速度波形、速度波形、加速度応答スペクトル(減衰定数5%)

K-NET輪島(震度6弱)、JMA輪島(震度6強) 近接した地点であるが波形とスペクトルには差異が見られる





穴水町・能登町の地震観測記録 加速度波形、速度波形、加速度応答スペクトル(減衰定数5%)

K-NET穴水の加速度波形にはサイクリックモビリティの特徴が 見られる





珠洲市の地震観測記録

加速度波形、速度波形、加速度応答スペクトル(減衰定数5%)

震央近傍の地震動 3地点とも計測震度は6.2(震度6強)





参考文献・使用データ

本調査報告書では以下のデータを使用させていただきました

・気象庁

震度情報

長周期地震動の観測結果

https://www.data.jma.go.jp

https://www.data.jma.go.jp/eew/data/ltpgm_explain/rireki.html

・防災科学技術研究所 強震観測網(K-NET、KiK-net)

https://www.kyoshin.bosai.go.jp/kyoshin/

・国土地理院
地理院地図

https://maps.gsi.go.jp

• Google

ストリートビュー